

【小項目評価基準】  
 評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。 評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。  
 評価4・・・年度計画を上回って実施している。 評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。  
 評価3・・・年度計画を順調に実施している。

令和3年度業務実績報告書における各小項目の自己評価結果一覧

大項目	小項目	ウエイト	自己評価結果		3年度業務実績報告書における自己評価の内容（※評価3については記載省略）	
			3年度	(参考) 2年度※		
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践	こども病院	2	4	4	○ 1人1日当たり入院単価及び手術件数は目標値を下回ったが、令和2年度に引き続き、公的医療機関として求められるコロナに係る小児医療の提供を行ったことや、ドクターカーによる新生児搬送を積極的に行ったこと、プレ期(10歳以上)の患者・家族に対する移行期支援(教育)を開始したこと、入院支援推進チームによる入院支援の対象診療科を拡大したこと、アレルギー看護外来の試行を開始したこと等を総合的に判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	4	4	○ 重点医療機関としてコロナ対応のための病床確保(※)を継続した結果、令和2年度と比較しても空床とせざるを得ない期間が長期化したことから、入院患者数、新規入院患者数、救急搬送件数が目標値を下回った。一方で、コロナ専用病棟を除く一般病棟は年平均93.9%の病床利用率を維持するとともに、高度専門医療の提供に積極的に取り組み、手術件数は目標を大幅に上回り、診療報酬におけるコロナ特例措置の加算分を除いた入院単価は73,541円と高水準となるなど、コロナの影響を受けながらも、通常医療を途切れさせないよう取り組んだことから、自己評価は「4」とする。 ※病床確保による、204床に対する年平均空床率 令和2年度:11.4%(23.3床) 令和3年度:19.3%(39.5床)
	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進	こども病院	2	4	3→4	○ 逆紹介率及び退院支援計画件数が目標値を若干下回ったが、コロナ禍においても、Webを活用したオープンカンファレンスや研修会等を通じて、地域の医療従事者への教育研修に積極的に取り組むとともに、地域の医療従事者及び市民への新型コロナワクチン接種対応を行うなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	3	3→4	
	(3) 災害・感染症等への適切な対応	こども病院	2	4	4	○ 大規模災害発生に備えた初動訓練の実施や設備の点検、PPE等の必要物品の確保等、事業を継続するために必要な取組を確実に行った。また、院内のCOVID-19対策本部を中心とした感染防止対策の実施、感染症外来機能の拡充やコロナ病床の追加確保等、コロナ患者の受入体制を整備し、患者を受け入れるとともに、地域の医療従事者及び市民への新型コロナワクチン接種対応を行うなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	4	5	
2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上	こども病院	2	3	4	○ 目標値については、病院ホームページのアクセス数が若干下回ったものの、ホームページの全面リニューアルに向けた準備を進めるとともに、広報誌のリニューアルを行い、感染対策を講じたうえで、地域住民の健康増進のための講座を開催するなど、年度計画を着実に実施した。さらに、約2年間におよぶ当院のコロナ対応に関する活動をまとめて記録集として発刊し、関係機関へ配布するなど、情報発信の強化に取り組んだことから、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	3	3	
	こども病院	1	3	3		
(2) 情報発信	市民病院	1	4	3		
3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修	こども病院	2	3	3	○ 感染防止対策の強化やTeam STEPPS®研修会の開催、クリニカルパスの数・利用率の増加等による医療安全対策の強化に取り組むとともに、薬剤管理指導や栄養食事指導等による安全・安心な医療の提供に積極的に取り組んだ。また、TPN無菌調製を全病棟に拡大して実施し、安全性の向上及び医師・看護師の負担軽減を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。
		市民病院	2	3	4	
	こども病院	2	4	4		
	市民病院	2	4	3→4		
(2) 信頼される医療の実践	市民病院	2	4	3→4		
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置						
1	自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	1	3	3		
2	事務部門の機能強化	1	3	3		
3	働きがいのある職場環境づくり	1	3	3		
4	法令遵守と公平性・透明性の確保	1	3	3		
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置						
1 持続可能な経営基盤の確立	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化	こども病院	2	3	3	
		市民病院	2	3	3	
	(2) 投資財源の確保	1	3	3		
2 収支改善	(1) 収益確保	こども病院	2	3	3	
		市民病院	2	3	3	
	(2) 費用削減	こども病院	2	3	3	
		市民病院	2	3	3	
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置						
1	福岡市立こども病院における医療機能の充実	こども病院	2	4	4	○ 臨床研究や治験業務に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献するなど、医療機能の充実を図った。特に、川崎病の症例数や先天性心疾患に係る手術症例数が成人を含むDPC病院の中で6年連続全国1位となったほか、川崎病の臨床研究では、福岡市立こども病院が主体で作成した論文が日本川崎病学会の川崎賞を受賞するとともに、2021年英語論文数で全国3位、インパクトファクターで全国1位となるなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。
2	福岡市民病院における経営改善の推進	市民病院	2	3	3→4	

※法人の自己評価と異なる評価を市が行った場合、右の要領で記載。(例:3→4 法人自己評価「3」→市の評価「4」)